

日本光電の地域貢献

地域社会の一員として、文化や習慣を尊重した積極的な地域貢献を通じて、良き企業市民を目指しています。

地域社会貢献

■AEDの普及・啓発を目的に『ガシャポン ミニチュアAED』を監修

日本光電は、株式会社バンダイが開発したカプセルトイ『ガシャポン ミニチュアAED』の監修に携わりました。

2004年7月から医療従事者ではない一般市民もAEDを使用できるようになりました。2021年現在、国内には約60万台のAEDが設置されていますが、使用率は5%程度にとどまっています※。そこで、実際にAEDの中身を見たことがない、触ったことがないという方に対して、AEDをより身近に感じ、使い方を簡易に学べるようにするといった教育的観点からカプセルトイの監修に至りました。本製品は子どもから大人まで幅広い世代の方が、普段使う機会の少ないAEDの中身を触って、使い方を体験できる仕様となっています。カプセルトイの取扱説明書では、実際のAEDの使用方法も紹介しています。

国内で唯一のAEDメーカーである日本光電は、救命現場で必要とされる治療機器の開発・供給に努めるとともに、今回のような使用方法についての啓発活動にも積極的に取り組むことでAEDの認知・使用率の向上に貢献していきます。

※ AEDの設置台数は、平成28年度厚生労働科学研究費補助金研究報告書「心臓突然死の生命予後・機能予後を改善させるための一般市民によるAEDの有効活用に関する研究」(研究代表者：坂本哲也 帝京大学救急医学講座教授)をもとに当社推計。AEDの使用率は、令和2年版救急・救助の現況(総務省消防庁)をもとに当社推計。



■日本赤十字社による献血活動に協力

新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、献血協力者が減少しており、輸血に必要な血液確保が急務となっています。日本光電では、社会的要請に応えるべく、2020年6月、所沢事業所において、日本赤十字社 埼玉県赤十字血液センターによる献血会を実施しました。

当日は、換気、消毒、入場者の分散など新型コロナウイルスの感染対策に十分留意した体制で実施し、出勤率が制限されている中、53名(申込者数57名)の社員が献血に協力しました。この取り組みが認められ、同年8月に同センターから献血活動に対する感謝状を受領しました。今後も新型コロナウイルスの感染状況を考慮した上で、献血活動を継続していく予定です。日本光電では、企業市民としての責任を自覚し、企業・個人の立場両面から積極的に社会貢献に取り組めます。



Topics

ニューロトロニクス社(米国 フロリダ州)では、社会貢献活動の一環として事業所周辺の清掃活動を隔月で行っています。2020年度は新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、活動を自粛していましたが、2021年5月に再開しました。今後も清掃活動を通じて環境保全活動を推進し、社会貢献に取り組んでいきます。

